



出雲大社北島国造館に於いて

宗浦家元 献茶奉納

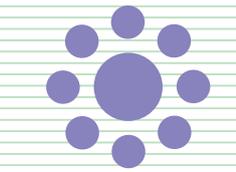
新型コロナウイルス感染症収束を祈願



令和二年九月二十七日(日)、

出雲大社北島国造館に於いて、宗浦家元による献茶が奉納されました。例年開催されていた亀山茶会は、新型コロナウイルス感染症防止のため、中止となりました。

献茶式には、宗育宗匠、小林会長をはじめ、九曜会を代表して役員十五名が参列し、新型コロナウイルス感染症の早期収束と五穀豊穡を祈願しました。



三齋流

九曜会だより

発行

三齋流九曜会

会長 小林祥泰

事務局 出雲市今市町53

今年度も、新型コロナウイルス感染症の発生状況を鑑み、休会や開催延期の茶会が相次ぎ、収束が見通せない現状において、開催を期待しながら待つ日々が続きました。閉塞感の漂う日常にあっても、多くの方が、新しい生活様式によって、季節の移ろいの中で美味しくお茶を戴かれ、茶の湯の楽しみを通して潤いのある豊かな暮らしを送れるようにと願ってこられました。

九曜会においても、医学監修に基づき、観翠庵ご指導の下、感染拡大状況の変化に応じて、事業開催や茶会のあり方を模索しながら、感染防止対策を施して臨む一年となりました。

九曜会事業報告

〈令和二年七月〜令和三年八月〉

○理事会

令和二年七月五日(日)

ホテル武志山荘

コロナ感染症の全国的拡大の第二波が迫り、九曜会総会及び記念講演会が中止となりました。

役員、各社中代表者が参加して理事会が開催され、令和二年度九曜会事業・会計決算報告の承認、並びに令和三年度の新組織改編及び事業計画・予算案が審議され、

理事会での承認を以て総会に替え、新年度がスタートしました。

○三齋忌

令和二年十二月六日(日)

【濃茶席】

観翠庵道場 松露亭

担当 杉山社中

来客数 六十名

床は、荒井一掌筆「梢翁無味茶」、鏝銅鶴首花入に初嵐と冬苺を入れて、お客様をお迎え致しました。

コロナ禍以来、初めての茶席でとても緊張致しましたが、参加の皆様には久方ぶりの茶会で楽しく過ごして頂けたと思っております。

濃茶席のお点前はせず、三人一碗での呈茶を行いました。手洗、マスク、換気、消毒等に十分対策をし、無事に茶会が行われた事に安堵し感謝申し上げます。
(杉山社中 錦織君子)



三齋流九曜会だより

追懐



茶道口の襖が開き、なんとも神々しく一礼し、茶室に一步足を踏み入れるお姿を今も鮮明に覚えております。その献身的で涼やかなお点前、釜の蓋を取られる時の呼吸、柄杓をお持ちの指先の緊張感、何よりその小さなお姿で雄大でゆつたりとした一席……。今こうして茶室に座りますと、表千家堀内家兼中齋宗匠の元で、何を学び何を得て、それを己として照らしているかと思うと、お恥ずかしい限りでございます。



兼中齋宗匠



私の好きな宗匠のお姿は、お庭で花を切る時であります。裏庭にある淡いピンクの木槿を、少し背伸びをされ一輪切られ、蟻が花に付いているのを微笑み、茶室の古銅の花入れにさつと入れると、先程まで無造作に咲いていた木槿が儂い主人公となります。決して珍しからず様な花を入れず、葉を数えるなど笑止千万。「花は野にあるように」と言われますが、野にある時より自然である。私は未だに花を入れるのが嫌いです。お側で、宗匠が一瞬で入れた花を覗ておられますと、幾度自分で入れてみても良いと思えることがないので、私も茶の湯を教える立場になり、口では、上手い下手ではないですよ、等と申しておりますが、やはり自分にもその負い目はあるものであります。

しかしながら、自然体で入れるというのにはむしろ無作為であり、下手な方が上手いのかもしれませんが、華道を習うと茶の湯の花は入れられないと聞いた事があります。

なるほどわかる気がいたしました。利休の話の蹲の石も同じ感性でしよう。それはまたの機会にいたしましょう。

また、無駄花を採らないように、という事をよく仰っておられました。基本的に茶席の花は使うその日の朝、庭で決めることとなるでしょう。あまりあれもこれもと色々な花を採るのではなく、決めたその花のみでよいのです。また、亭主に花を贈ると言う話もよくありますが、亭主の所望で花を贈ることはあっても、やはりそれ以外はどうしても無駄花を作る事になってしまいます。茶室に入る花というものは、亭主を写すといい、その花を見れば亭主の心意気、誠実さ等、口にする必要のない思いが伝わって来るものであります。まさしく「拈華微笑」であります。

お釈迦様は一枝の花を皆にかざし、その日の説法を終えた。茶事に於いても、濃茶を出すメインの後座で、掛物ではなく花を飾ると

いうことは、どれ程の名墨、名画であろうともその日一日の命である一輪の花に勝るものはないということでありましょう。何という花が花入に入っているかということより、亭主の入れた花はどうであったか、ということであります。

茶の湯は、花一つとつても、実に奥の深いものであります。

第1回 Hot ほっと 茶時間 ティータイム

◆ ◆ ◆
今号から、賛助会員の皆様の日々のお茶とのかかわり、会の活動を紹介するコーナーがスタートいたします。第一回は翠新会です。

◆ ◆ ◆
元出雲市長で九曜会顧問をされていた故直良光洋さんが、三齋流家元発展を願い、平成十七年四月、出雲市役所OB有志十五名と共に翠新会を結成されました。

◆ ◆ ◆
例会は、会員の旧交を温め、一服のお茶を頂く事により、日々の生活に潤いを得るため、家元を囲み月一回、第一月曜日に行うこととなりました。



翠新会のみなさん

宗浦家元からは、茶の湯の講義、茶席の室礼、道具の扱い方を学んでいます。特に記憶に残っているのが、幕末最大の茶人であった井伊直弼の「茶の湯一會集」を数年かけ講義を受けたことです。

お茶の作法や茶事に疎い会員には難解で、家元にはご苦勞難儀をおかけいたしました。

又、宗育宗匠からは、濃茶、薄茶の頂き方、時期のお軸やお道具の取り合わせ、それを教材に作者や道具の謂われ等の説明を聞いています。

その後、宗瑞宗匠の往時の事や世情の事など楽しく談笑し、交友を深めています。

現在八名の会員は、今後も、出席率一〇〇%でこのひとときを楽しみたいと思っております。

(当番幹事 下垣晴司)

第6回 先達探訪 三齋流の先生を訪ねて

秋晴れの十月某日、九曜会の顧問をなさっています杉原昭子先生のお宅にお邪魔いたしました。

玄関先の大きな椿の実を見ながら先生は、「石鼎ですよ。」と笑顔で迎えてくださり、早速、お稽古場でお話を伺いました。



杉原昭子先生

◆三齋流との出会いをお尋ねします。

私は、仕事をしていた時、観音寺の西にお住まいの万代順子先生に習字を習っていました。先生が山田操先生にお茶を習っておられ、紹介してもらったのが、お茶を始めたきっかけです。まだ土曜日が半日で、帰りにはお花も習って自転車に乗って帰ったものです。

◆宗瑞宗匠や九曜会での思い出は？

雲南市の田部邸や奥出雲町の櫻井邸に、拝借したお道具を宗瑞宗匠がお返しにいらつしやる時に、当時、宗匠のお側で九曜会の世話をしていただいていた吉田貞夫さん連れて行ってくださいました。北島国造様の所へもお供しました。そ

の後、亀山茶会が始まりましたよ。島根新聞社(当時)に、松江城山茶会の最初の打ち合わせにも行きました。事業部がない頃の話です。

◆心に残るお茶会をお聞かせください。

熊本の八代市で開かれたお茶会です。汽車に乗って北九州まで行き、そこからバスで八代まで行きました。八代では、松井家ゆかりの松浜軒の三畳の間でお茶会があり、宗瑞宗匠から一番初めにお点前をなささいと言われ、震えながらお点前をしたのが、心に一番残っています。松浜軒の池の風景と共に、今は懐かしく思い出します。

◆座右の銘とされている言葉は？

宗瑞宗匠に揮毫していただいた『露堂々』です。「いつも心を露わにして生きていく」と宗瑞宗匠がお示しくださっていると思つて、毎日見えています。



◆後輩へのメッセージをお願いします。

私は、一月に満九十四才になります。お弟子の皆さんが稽古に来てくださっているからこそ、今日までお茶を続けることが出来ていると感謝しています。昔は十人くらいおりましたが、今は高齢になって運転が難しくなったり、家族の介護で稽古が出来なくなったりして、辞められた方もあります。

そういう時代の中にあつて、遠い雲南市から稽古にやつて来るY君の事を書いてみました。

支えられて 杉原昭子

『ヨッシャー』

ぼくは、茶道を習うことになつて、すぐうれしかったです。

ぼくが茶道を教えてもらうのは杉原先生です。年齢は九十才だけど、とても元気です。ぼくは、昨年の十月に初めて先生の家へ行きました。先生に会う前は、先生は、まず初めに盆点前をしてくれました。そのとき見た先生の手の動きや足の運び方がとてもしなやかで水が流れていくように感じました。真けんな表情でお点前をしておられました。茶せんが茶わんに当たる音を聞いたとき、(やさしい音だなあ)と思いました。ぼくは、この時初めてお点前を目の前で見ました。それまでは、松江城の大茶会に行っていました。お点前をしている時の音までは聞こえませんでした。いつか先生のような水が流れるようなお点前がしてみたいと思ひました。先生の家から帰るとき、ぼくは、お茶が好きになったのだと自分で気がつきました。

それからはぼくは、月に二回

ずつけいこを続けています。順番を覚えるのがむずかしいですが、覚えられたときは、とてもうれしいです。(後略)

この文は、Y君が小学校五年生の時、学校の文集に出したものです。いつも自分で作った茶盤で(壊れたらいけないので)お点前をしています。ある日、「先生、ぼくが初伝や中伝をとるまで、長生きして下さい。」と言った時は、嬉しかったような、何ともいえない複雑な気持ちでした。今は中学二年生になり、部活や試験もあり忙しいのに、お母さんの車に乗せてもらい、木次の下熊谷から来ています。今日も、親子で膝を揃えてお辞儀をして帰って行きました。

一度、社中の皆さんとY君の家へ行き、せせらぎの音を聞きながら、Y君のお点前で一服できることを楽しみにしております。

高齢化の進む現代に、私達は今こそ若い人や子ども達に伝統あるこの三齋流の由来やお点前を引継がせ、九曜会が益々発展するよう心がけねばならないと思います。

◆先生は、今回わざわざ原稿を用意して、訪問を待っていてくださいました。背筋を伸ばし、肌艶も良い杉原先生。生活習慣のお話も伺つて、お暇いたしました。

(広報部 大野智子)

祝・米寿(昭和九年生まれ) おめでとうございませう

勝部美代子さん 山崎社中
ご多幸とご健康を お祈りいたします。

オリジナル和菓子 「紫雲」誕生

◆松江城大茶会が中止され、代替企画「松江城マイ茶会」(山陰中央新報社主催)が開催されました。その一環として、十一月、各流派と松江銘菓会とのコラボによるオリジナル和菓子が製作販売されました。



◆天高く冴え渡つた秋空に、古来より吉兆を告げるとされる紫雲を想像し作りました。早く心安らぐ世の中になる事を祈念して、少しでも多くの方が、笑顔になれるひと時のお供になればと願っています。(山陰中央新報・十一月一日付)

◆典子先生がご考案され、彩雲堂が製作した三齋流の和菓子は、皆様に大変好評でした。

未曾有の危機に立ち向かう 統率者のリーダー力

— 幽齋・三齋に学ぶ —
和田貞夫

一、猛威をふるう コロナウイルス

古来、人類は風水害・地震・津波・疫病・飢饉・噴火等の自然災害や戦争・経済危機など幾多の災難危機に見舞われてきた。それに対して人々は、安全と生存を求めて戦い数多くの危機を乗り越えて今日を迎えている。

このような危機に見舞われた時に事態の深刻さを的確に把握・判断して決断し果敢に行動する統率者の優れたリーダー力によって人々は救われ危機を乗り越えて現在に至っているのであった。

例えば、江戸時代最大の大火である明暦の振袖火事の際には江戸市街地の約六十%が焼失し死者が十万人以上に達したが、この危機に対して幕府の陣頭指揮を執ったのが將軍の後見役であった会津藩主保科正之である。正之が大火後、対策にまず第一に取り組んだのが被災者の救済でいち早く幕府の貯蔵米を提供して炊き出しを行い、焼き出された町民へ救済金を支給して物価の安定を図った。また、

強力なリーダーシップを発揮して江戸城天守閣建立に反対して城よりの町の再建を優先して江戸の復興に努め、今日の東京の街の基礎を作り上げたのである。

現代に於いても、世界中で猛威をふるうコロナウイルスの感染が拡大し多くの人々が命を落とす危機に見舞われている。この感染症の増大は命を奪うだけでなく経済を困乱破綻させ人々の心を荒廃させている。

執筆時の五月現在、沈静化傾向の国も若干見られるが、多くの国ではコロナウイルスの猛威の危機は衰えていない状況である。日本国内でも感染者は日増しに多くなり、政府はようやく緊急事態宣言を発令して沈静化を図ろうとしているが、国と地方との見解が異なっており、その対応策にばらつきが目立ち、企業や商店に対する休業要請を巡る線引きに不公平感が漂い困乱している有様で、行政方針に一貫性を欠く現状が続き憂慮されている。

五月十二日、世界保健機構(W

HO)は、コロナウイルスへの対応を検証してその結果を公表し世界的感染を防げなかったのは「国際的な政治指導力が欠如していたためだ」と指摘しているが、まったく同感である。この世界的危機に対して関係者の強力なリーダーシップが求められているのに残念ながら欠如し事態は益々、混迷を深めている現状である。

二、大河ドラマ 「麒麟がくる」

大河ドラマ「麒麟がくる」は、明智光秀を中心に群雄割拠の戦国時代に生きた波乱に満ちた武将達の生涯を描いた物語で久方振りに筆者は連続して見たのであった。

麒麟とは、中国の幸運をもたらす想像上の聖獣で、優れた才能のある人物を指す語句である。

室町幕府の末期、十四代將軍足利義輝や十五代將軍足利義昭の幕府再興運動、朝倉・三好の戦国大名、織田信長の上洛・明智光秀による本能寺の変、豊臣秀吉の抬頭・山崎の合戦等、光秀の生涯を中心に波乱万丈の戦国絵巻がテレビでは描かれているが、その乱世を駆け抜けて最後に幸運を捉えた武將、即ち麒麟はだれか、物語の中では明確にされてはいない。暗に光秀が麒麟を求めて生きていたかの様に描かれているが、視聴者の判断にまかせてある。

本能寺の変で光秀が細川藤孝・忠興父子を味方になる様に必死に誘うが、藤孝は「歴史の中には大きな流れがある。その流れをしつかりとつかみ、的確に判断して生き抜く事が大切である。」と誘いを断る。この一言が重要で戦国乱世を生き抜く事ができた細川父子の信念と行動原理そのものである。そして麒麟は藤孝・忠興の許へ歩み寄ったと筆者は細川氏の歴史を学んで確信するのであった。

室町幕府二代の將軍に任えながら信長に従い、光秀の誘いに応ぜず秀吉の許で生き残り関ヶ原の戦いで苦しい立場に置かれながら生き抜き家康に任えて細川氏が繁栄していく事ができたのは、歴史の中の大きな流れをしつかりと見据える的確に判断、決断して生き抜いた藤孝・忠興の優れた統率者としてのリーダー力の素晴らしさにあると思うのである。

三、乱世を駆け抜けた細川氏

細川藤孝と忠興の研究については多くの学者の論文があるが、特に島根県出身の国学院大学教授で茶道文化芸術賞の受賞者である米原正義先生の論文が優れており筆者は教育センター勤務時に米原先生を講師としてお招きし、お世話になった事があり、ぜひ米原先生の論稿をこの稿では紹介したい。

先生には千利休・尼子一族・大内義隆・陰徳太平記など戦国史の論文が多い。

○細川藤孝(幽齋)

藤孝は天文三年(一五三四)出生、細川家を相続して室町幕府十三代將軍足利義輝に任えるが大柄な偉丈夫の人で剣術は塚原ト伝に学んで免許皆伝で弓術も達者で、また秘伝であった古今和歌集の伝授も受けた歌道の学者で文武両道の達人であった。茶の湯も武野紹鷗に学んだ茶人で太鼓打ちの名手であり料理名人でもあつて戦国時代一のインテリ大名であった。

細川氏が見舞われた第一の危機は、天正十年六月二日の本能寺の変で丹後宮津の城主であつた藤孝の許へ早くも翌三日幸朝僧正から急報が届き、光秀が秀吉かの二者選択の苦しい立場を迎える事となる。藤孝は直ちに剃髪して幽齋と号し後事を忠興に委ねた。忠興は光秀の娘である玉(ガラシヤ夫人)を離縁して山中に幽閉し、光秀の再三の誘いに全く動かなかった。秀吉は、細川父子のこの身の処し方を珍賛して丹後の国一円の領地を安堵したのである。

次の危機は、慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の合戦である。忠興は東軍に組して家康と共に会津討伐に向かっていたが、西軍の石田三成は大阪の細川邸を包囲し、ガ



田辺城(京都府・舞鶴市)

ラシャ夫人に人質となるように催促するが夫人は拒んで殉死する。更に西軍は一万五千人の大軍で僅か二千人で守る藤孝の居城の田辺城を取り囲んだ。西軍の中に雲南市出身の三万屋孝和の名が記録されている。後陽成天皇は、歌道の奥義を究めた幽斎を心配して西軍に攻撃の中止を要請、幽斎はこれに応えて田辺城を退いて亀山城へ移るが、西の大軍が長期足止めされた事実は東軍勝利の一因となった。

米原先生は、藤孝は名将としての名は高く武功のみならず当代一流の文化人でもあったとし、「勇と知と徳を持った人物が人の長であり藤孝こそが真の人の長である。」と稿を結んでおられる。

○細川忠興(三齋)

永祿六年(一五六三)藤孝の嫡男として京都の細川邸で出生、幼

名を熊千代、与一郎と名乗った。

幼少時から武勇に優れ、信長はその剛勇を誉め、与一郎宛に軍功を称える感状を送り家臣として任える榮譽を与えて息子信忠の一字をとって忠興と名乗らせたのであった。

忠興は、父と同様に武将として優れ、秀吉・家康に任えて歴戦に参加し多くの武功を挙げ、特に関ヶ原の合戦では勝利に貢献して大きな危機を乗り越えて大大名への道を歩むのである。

家康より豊前一国と豊後の一部分三十九万九千石の領地を与えられて慶長五年、新領国へ移り中津城へ入城し丹波十八万石から一躍、四十万石の大名となった。

忠興は、千利休に茶の湯を学んで三齋と号し利休七哲の一人として、特に利休の教えを忠実に遵守し戦場を駆けめぐった武将としての強き茶の茶人として活躍、家康・秀忠・家光の三代にわたって將軍家に茶の湯を指導したのである。

細川氏は、この様に幾多の危機を乗り越えて乱世の時代を生き抜き、遂には九州中央部の大藩として定着し繁栄していく。

四、繁栄する細川氏

徳川三代將軍家光によって強力な大名統制政策が強行され全国的統治が形成されていく。九州の大

藩肥後の加藤光弘や家光の弟徳川忠長の改易などが強行され、細川氏は肥後熊本へ国替えとなる。

寛永九年(一六三二)忠興の後継者として藩主となった忠利が熊本城へ入り、忠興は隠居領として八代城に入った。忠利は、入城すると天守閣へ登り加藤清正の墓へ向かって深々と頭を垂れたと言

う。清正の遺徳を大切にその姿勢は、その後の藩経営の安定に寄与したと言われている。

忠興は、天保二年(一六四五)八十三歳で没し、その遺霊は大徳寺高桐院に葬られた。

細川氏は、九州の大藩として忠利の後、光尚・綱利・宜紀・宗孝・重賢・治年・斉茲・斉樹・斉護・韶邦と続いて、やがて明治維新を迎える。

特に重賢は、江戸時代を代表する名君として全国的に名高い。天明の大飢饉に対して藩の米倉を開放して領民を救い、茶道具を売って財政再建の資金とし、藩内からは一人も餓死者を出さなかった。また、博物学者で教育熱心であり総合大学の時習館を開校して広く領民の教育普及に努めた。

明治に入って最後の藩主で藩知事の護久は、横井小楠などを藩政に起用して進歩的な政策を実施して近代日本の政治・教育・医療の発展に大きな影響を与えたので

あった。

更に、護成・護立・護貞・護熙・護光と続き、中世から現代に至る迄、波乱に満ちた歴史の中を幾多の危機に見舞われながら抜群のリーダー力を発揮して苦難を乗り越えて細川氏は繁栄し、現在に至っているのである。(文中の尊称は略)

当代の護熙公の県知事・内閣総理大臣としての御功績は当然として、抜群の作陶活動や寺院への襖絵の染筆奉納など、実に心から敬服・賞讃申し上げる次第で文武両道の流れは、細川氏の家系に脈々と受け継がれているのである。

五、統率者のリーダー力に文化力を

幽斎の教訓歌の中に、次の様な和歌がある。

武士(もののみ)の知らぬは

恥ぞ・馬茶の湯

恥より他に恥はなきもの

歌連歌舞・茶の湯を嫌ふ人

育ちの程を知られこそすれ

この和歌は、武士として武道に励むと共に茶の湯や歌道の修業も大切であると教えている。

幽斎・三齋共に、文武両道の達人で多くの戦場を駆け抜けて数々の武功を挙げた武将であるが、また茶の湯や歌道等の文化面を通して多くの人々と接触し、交流を深めてその人脈から豊かな正しい情

報を得て、広い視野から冷静に正確な判断をし素早い決断・実行をして危機を乗り越えていったのである。歴史上の危機を乗り越えていくためには、政治力や経済力等と同様に人を動かしコントロールする力として統率者のリーダー力に文化力が大きな戦力となり得るのである。

現在の未曾有の危機に見舞われた憂うべく状況にあつて、細川氏の歴史の中から何か学ぶべき教訓がある様に筆者は思われてならないのである。

喧嘩な社会の中にあつてこの危機に立ち向わんとする時、今こそ茶の湯を学んで豊かな文化力を身につけて、冷静に正しく判断し的確に決断・実行して日々の生活を送っていききたいものである。

真剣に茶の湯を学びゆく、その努力の前途には必ずや麒麟が待ち受けているであろうかと念じ期待しつつ筆を置く。

◇ ◇ ◇

卒寿を迎えて九十年に及ぶ我が身の生涯を振り返ってみると、残念ながら筆者の努力の道の歩みは終始拙なく麒麟の影は見えず、ただ駄馬の歩みであったかと反省する事しきりの今日この頃である。

嗚呼・実に無念至極

1ページより続く

【薄茶席】

観翠庵道場 富士の間

担当 辰村社中

来客数 五四名

コロナ禍において、本場に久々のお茶会となりました。来席のお客様に消毒・検温・マスク着用をご協力いただきました。担当する私達も、茶碗の洗い方一つにも細心の注意を払って感染対策を行いました。なにより心を込めて、熱い一服のお茶を差し上げました。あらかじめ席入時間と人数が決まっていたことも相まって、皆様、本場にゆつたりとした時間を過ごしていただきました。

(辰村社中 大國優子)



○新樹の茶会

令和三年四月二十九日(木・祝)

【薄茶席】

観翠庵道場 富士の間

担当 下垣・山田・加儀社中

来客数 九九名

雨が新緑の葉を濡らし清々しい空気を感ずる中、感染対策を講じ、九曜会員・賛助会員の方々のみお招きし、席担当をさせて頂いていただきました。

感染対策が優先だった為に、皆様にはお道具をゆつくりご覧いただくこともままならず、申し訳なかったです。お陰様で皆様の御協力により無事終える事が出来ました。早く以前のように平穏な日常を取り戻し、茶会を開催したいと改めて強く感じました。

(加儀社中 三島羊子)



【呈茶席】

観翠庵道場 松霞亭

担当 下垣・山田・加儀社中

来客数 九九名

春雨降る中、お床には、乾英宗単筆 蛭子画賛「如何是禪」・花入は、三齋公作の竹一重切を取り合わせ、新樹の呈茶席の担当をさせて頂いていただきました。



担当者一同心を一つにして、感染対策に万全を期したおもてなしを熟慮する中で、改めて日常の当たり前の有難さに気付かせていただきました。



○青年部さくら会

【小山園ボランティア】

令和二年十月十一日(日)

ハートフルおやま

ご来席された方が喜んでくださるお姿にほっとし、感謝の一日を終えることが出来ました。(山田社中 佐々木法子)

今年度の呈茶ボランティアは、コロナ禍の為一度だけの開催となりました。毎年開催される出雲駅伝にあわせて、利用者の方と沿道で応援するのですが、駅伝自体が中止となり残念でしたが、利用者の方に少しでも喜んでもらうのと、呈茶以外に風船ラリーをしました。思いのほか熱が入り、皆様に喜んで頂けました。



早くコロナ禍以前の日常に戻ることを願うばかりです。(青年部 三島羊子)

♡冥福をお祈り申し上げます

- 武田睦弘先生 (令和二年九月)
- 内田 稔先生 (令和三年三月)
- 辰村 栄先生 (令和三年五月)
- 曾田文雄先生 (令和三年五月)

◇長年に亘る九曜会事業へのご尽力に感謝申し上げます。

お知らせ

九曜会公式ホームページの一部をリニューアルいたしました。ご覧ください。

編集後記

今号から、宗浦家元にご執筆をお願いし、新連載を開始いたしました。家元にはご快諾くださり、ありがとうございます。

また、新たに賛助会員の方のコーナーを設け、事業報告には、青年部の活動も加わりました。

今後、皆様にも少しでも喜んでいただける紙面作りに努めて参ります。皆様には、引き続きご協力いただきますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

(広報部)